新百合ヶ丘総合病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストであると同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

責任基幹施設の新百合ヶ丘総合病院では，麻酔科医（16名，うち指導医８名，専門医６名）は手術室麻酔のみならず，ペインクリニック・緩和医療，集中治療と多岐に渡る分野に従事している．当院での研修を通じて，充実した麻酔研修はもちろんのこと，心臓麻酔・ペインクリニック・緩和医療などのサブスペシャリティー領域も同時に研修しつつ，付加価値の高い麻酔科専門医の育成を目指す．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に記されている．

さらに関連研修施設の東京都立小児総合医療センターおよび神奈川県立こども医療センターでは小児を中心とした研修をすることができ，済生会横浜東部病院では集中治療，救命救急の研修も可能である．

当プログラムを通じて，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成することを目的とする．

尚，当プログラムには多数の研修施設が連携しているが，どの施設で研修を受けるかを決定するのは専攻医自身であり，こちらから研修施設・期間を指定されることは無い．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半２年間は，責任基幹施設で研修を行う．
- 研修の後半２年間は特殊麻酔症例を経験するために，専門研修連携施設で研修を行い，ペインクリニック・緩和医療・和痛分娩・集中治療などに従事する．
- 専攻医個々の経験目標症例数の達成状況や要望などに応じて，責任基幹施設および研修関連施設での勤務時間やローテーションは，柔軟に対応するものとする．

研修実施計画例

年間ローテーション表（例１）

	１年目	２年目	３年目	４年目
A	新百合ヶ丘総合病院（手術室一般症例）	新百合ヶ丘総合病院（手術室一般症例）	東京都立小児総合医療センター（小児症例）　など	新百合ヶ丘総合病院（麻酔症例，特殊症例）
B	新百合ヶ丘総合病院（手術室一般症例）	川崎市立川崎病院，済生会横浜東部病院など	神奈川県立こども医療センター　など	新百合ヶ丘総合病院（麻酔症例，特殊症例）

週間予定表

例１

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	研究日	手術室	手術室	隔週勤務	休み
午後	手術室	手術室	研究日	手術室	手術室	隔週勤務	休み

＊休日は基本的に休み

例２

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	研究日	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	研究日	手術室	休み	休み
			当直				

＊休日は基本的に休み

4. 研修施設の指導体制

【専門研修基幹施設】

○新百合ヶ丘総合病院

研修プログラム統括責任者：伊藤 寛之

専門研修指導医：伊藤 寛之（麻酔，ペインクリニック）
中西 英世（麻酔，緩和医療）
上田 佳代（麻酔，小児麻酔）
土居 朗子（麻酔）
山崎 祐子（麻酔）
木村 真也（麻酔，心臓麻酔）
華山 悟　（麻酔，心臓麻酔）
浅野 麻由（麻酔，心臓麻酔）
根波 朝陽（麻酔）
伊藤 由莉（麻酔）
金岡 由紀（麻酔）
坂口 了太（麻酔，集中治療）

専門医：　冨田 知恵（麻酔）
宍井 美穂（麻酔）
太田 昇吾（麻酔）
米田 誠（麻酔）

専攻医：　郡家 慶浩
一井 利文
櫻井 隆行
來住野 翔
九本 将文

麻酔科認定病院番号：1598

特徴：新百合ヶ丘総合病院は，川崎市北部医療圏における高度急性期病院として，2012年8月に開院した総合病院．救急車受入年間約7,000台，病床稼働率約96%，外来患者数1日平均1,000名を超え，現在全身麻酔下において手術のできる手術室が14室ある．

また救急センターの施設拡充により，応需率向上・受入重症度／対応疾患の拡大に取り組み，地域にさらなる貢献ができるよう，体制を整えた．

手術前には患者さんの全身状態をチェックし，合併症の改善，全身状態の安定を図り，より良い状態のもと手術に臨んでいただけるようにしている．また丁寧な説明を心掛け，患者さんの術前の不安を取り除くように取り計らっている．

術後鎮痛は，持続硬膜外ブロック，その他各種ブロックもエコー下に実施する．
何らかの理由でブロックができない方にはマイクロポンプを使った持続静脈鎮痛を行い，患者さんが術後快適に過ごせるようにする取り組みも行っている．
常により安全で痛みの少ない麻酔を提供し，安心して治療を受けていただけるよう努力している．
当院の手術症例の特徴として婦人科・外傷再建センター・脊椎脊髄末梢神経外科・呼吸器外科・泌尿器科等の手術件数が多く，手術支援ロボット（泌尿器科，婦人科，呼吸器外科，消化器外科で使用），など先端医療機器の導入・研修も積極的に行い，「すべては患者さんのために」の理念のもと，優秀な人材育成に力を入れている．

【専門研修連携施設】

① 社会福祉法人恩恵財団済生会横浜市東部病院

研修プログラム統括責任者：佐藤智行

専門研修指導医　佐藤智行（麻酔，集中治療）
谷口英喜（周術期管理，麻酔）
高橋宏行（集中治療，麻酔）
上田朝美（麻酔，集中治療）
斎藤郁恵（麻酔）
秋山容平（麻酔，心臓麻酔）
冨田真晴（麻酔）
佐藤貴紀（麻酔，集中治療）
三浦　梢（麻酔）
鎌田高彰（麻酔，周術期管理）
玉井謙次（集中治療，麻酔）
中山博介（麻酔）
竹田渓輔（麻酔）
田中敬大（麻酔，心臓麻酔、区域麻酔）

専門医
佐藤雄生（麻酔，区域麻酔）
稲垣里穂（麻酔）
津田匠太（麻酔）
松岡雄治（麻酔）
松尾津波（麻酔）
宇佐美清吾（集中治療，麻酔）

麻酔科認定病院番号　1315

特徴：済生会横浜市東部病院は平成 19 年 3 月に開院し、地域に根ざした横浜市の中核病院として、そして済生会の病院として、救命救急センター・集中治療センターなどを中心とした急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する病院である。また、急性期病院であるとともに、ハード救急も担う精神科、重症心身障害児（者）施設も併設されている。また、「より質の高い医療の提供」に加え「優秀な医療人材の育成」も重要な使命と考え、研修医、専門医の育成にあたっており、医師、すべての職員が、充実感をもって働くことができる職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。

② 川崎市立川崎病院

研修プログラム統括責任者：森田慶久

専門研修指導医：
森田　慶久　（麻酔、集中治療）
菅　規久子　（麻酔、集中治療）
梶谷　美砂　（麻酔、緩和ケア）
奥田　淳　（麻酔、集中治療）
出野　智史　（麻酔、集中治療）
平畑　枝里子（麻酔、集中治療）
石渡　博昭（麻酔、集中治療）
岡部　久美子（麻酔）
瀬上　和貴　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：199

特徴：川崎市立川崎病院は、病床数約700床を擁し、麻酔科管理の手術症例数は年間4500例を超える川崎市の地域基幹病院である．各診療科が揃い、移植外科や小児心臓外科等の特殊症例を除く、すべての診療科の手術を経験することができる．３次救急指定病院であり、緊急手術症例も豊富である．マンパワー、教育体制も充実しており、丁寧な指導を受けながら幅広く症例を経験できる．当院麻酔科では、画一的な麻酔にとらわれず、プロフェッショナルとして様々な状況に柔軟に対応できる懐の深い麻酔科医を育てたいと考えている．手術室業務のほかにICU業務も兼務しており、集中治療の研鑽も積むことができる．責任基幹施設である川崎市立川崎病院をはじめ、連携研修施設の川崎市立井田病院、済生会横浜市東部病院、東京都立小児総合医療センター、社会医療法人財団石心会 川崎幸病院、日本鋼管病院、慶応義塾大学病院、さいたま市立病院、東海大学病院、新百合ヶ丘総合病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する．

本研修プログラムは，麻酔科専門医の育成を行う中で、連携施設での勤務を通じて地域医療への貢献も同時に実現していけるよう配慮されている．

③ 一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院

研修プログラム統括責任者：服部　尚士

専門研修指導医：服部　尚士　（麻酔、心臓麻酔）
管　桂一　（麻酔、ペインクリニック、救急・集中治療）
小西　晃生　（麻酔、心臓麻酔）
埜口　千里　（麻酔、ペインクリニック、集中治療）
大槻　理恵　（麻酔）
島津　勇三　（麻酔、ペインクリニック、心臓麻酔、ICD）

専門医：　足立　国大　（麻酔、心臓麻酔、区域麻酔）
杉田　直人　（麻酔）
川向俊朗

専攻医：　石本昇太郎
関川美沙

院内協力科　（救急集中治療科）
比留間 孝宏　（麻酔科指導医、救急指導医、集中治療専門医）

麻酔科認定病院番号：0784

特徴：福島県中通りの中核（福島県郡山市　人口 33 万人）に位置し、福島県中部、県南地域の医療の中核を担っている。急性期医療のみならず脳血管障害や循環器疾患、がん治療に力を入れて診療を行っている。昨年度の救急車搬入件数は年間 7000 台、麻酔科管理件数は約 4800 件となっている。

当院では、救急医療とがん治療（放射線治療を含む）に力を入れ、多種多様な全身麻酔管理を 4 年間の研修プログラムの中で十分に経験することが可能である。症例に偏りが少なく一般外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓血管外科などの症例を幅広く経験することができる。最近では、ロボット支援下での手術（肺、食道、胃、肝臓、大腸、婦人科、前立腺）の症例数が著明に増加している。脳神経麻酔では従来の開頭手術症例（脳腫瘍、血管障害）に加え、血管内治療（コイル塞栓術や動静脈瘻）の麻酔管理も増加傾向にある。小児がんに対する陽子線治療の鎮静管理や地域の精神科病院と提携して修正電気けいれん療法の全身麻酔管理も行っている。

心臓血管麻酔認定施設であり、心臓血管麻酔専門医２名と３名の JB-POT 認定医が在籍し、TEE を含めた心臓血管麻酔の教育にも熱心である。TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）も週に１～2 回ペースで行われている。何より救急集中治療科との連携が密であり集中治療研修も配慮することが可能となっている。

④ 東京都立多摩総合医療センター

研修実施責任者：山本　博俊

専門研修指導医：山本　博俊（麻酔，心臓血管麻酔）
渡邉　弘道（麻酔，神経ブロック）
臼田　岩男（麻酔，心臓血管麻酔）
阿部　修治（麻酔，ペインクリニック）
田辺　瀬良美（麻酔，産科麻酔）
松原　珠美（麻酔）
三井　裕介（麻酔）
北條　貴也（麻酔）
平林　清子（麻酔）
本田　亜季（麻酔）
稲吉　梨絵（麻酔）
滝島　千尋（麻酔，ペインクリニック）
小松　郁子（麻酔，神経ブロック，心臓血管麻酔）
神保　一平（麻酔，救急医学）
稲垣　翔子（麻酔，心臓血管麻酔）
江村　彩（麻酔）
土屋　愛依（麻酔）

専門医：原　有梨香（麻酔）
華岡　万貴（麻酔，心臓血管麻酔）
湯本　由志（麻酔）
奥富　由貴（麻酔）
重松　純子（麻酔）
堀場　容子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：89

特徴：多摩地域における唯一の総合的な医療機能を持つ都立病院として、11の重点医療を定めて高度専門医療を実施している。その中でも救急医療、がん医療、周産期医療を三本柱として重視している。多数の外科系診療科がまんべんなくそろっており、症例は豊富でバラエティに富んでいる。緊急手術特に産科の緊急手術が多いのが特徴である。

⑤ 医療法人社団こうかん会　日本鋼管病院

研修プログラム統括責任者：村瀬頼子

専門研修指導医：村瀬頼子（麻酔）

津崎晃一(麻酔、ペインクリニック)
村瀬頼子(麻酔)
澁谷有香（麻酔)
竹村夏季(麻酔、ペインクリニック)

麻酔科認定病院番号：1252

特徴：「日本鋼管病院は 1918 年に設立され、100 年以上の歴史を持つ。1986 年には病床数は 395 床となり現在に至る。地域医療の中核を担いつつ、特に脊椎外科、スポーツ整形外科手術に強みをもち、これらの分野の最先端手術が多く行われている。より質の高い医療の提供のみならず、有能な人材の確保も重要なプロジェクトとして病院一丸となって職場環境の整備に取り組んでいる。

⑥ 帝京大学医学部附属溝口病院

研修プログラム統括責任者：丸山晃一

専門研修指導医：丸山晃一（専門分野：臨床麻酔、挿管困難症の麻酔、心肺蘇生法)
安藤富男（専門分野：臨床麻酔、神経科学)
平林　剛（専門分野：臨床麻酔、ペインクリニック、呼吸管理)
秋久友希（専門分野：臨床麻酔)
齋藤みなみ（専門分野：臨床麻酔、救急医学)

麻酔科認定病院番号：第286号

特徴：大学病院ではあるが２次救急に対応した急性期病院であり、特殊症例よりは一般的な疾患を対象とした手術が多い。内訳は各種内視鏡下手術の割合が多く、特にロボット支援下手術は前立腺全摘術のほか、腎部分切除、上部・下部消化管疾患、肺外科疾患、婦人科疾患においても広く活用されている。後期研修終了後には学位取得を目指すとともに、サブスペシャリティーを極めるべく国内・国外留学を強く推奨している。

⑦ 東京都立小児総合医療センター

研修実施責任者：　西部　伸一

専門研修指導医：　西部　伸一　(小児麻酔)
山本　信一　(小児麻酔)
簑島　梨恵　(小児麻酔)
伊藤　紘子　(小児麻酔)
箱根　雅子　(小児麻酔)
佐藤　慎　　(小児麻酔)
千田雄太郎　(小児麻酔)

専門医：　福島　達郎　(小児麻酔)

和田　涼子　（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が 4000 件以上と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

⑧ 神奈川県立こども医療センター

研修プログラム統括責任者：中村 信人

専門研修指導医：中村 信人　（小児麻酔・小児心臓麻酔）
三浦 倫一　（小児麻酔・小児心臓麻酔）
蜂屋 好子　（小児麻酔・小児心臓麻酔）
山口 恭子　（小児麻酔・小児心臓麻酔）
青木 真理子（小児麻酔・小児心臓麻酔）
小林　憲弥　（小児麻酔・小児心臓麻酔）
中森　亜葵　（小児麻酔・小児心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号：88

特徴：当院の手術室では小児の外科分野全科の手術を行っている．新生児症例や小児心臓血管外科の症例も豊富で小児麻酔を広く経験できる．外科各科やNICU,ICUとの連携,関係は良好で,周術期の管理についても深く学ぶ事が可能.

⑨ 医療法人財団健貢会　総合東京病院

研修実施責任者：岩室 賢治（麻酔・集中治療）

専門研修指導医：岩室 賢治（麻酔・集中治療）
伊澤　仁志（麻酔）
豊田 佳隆（麻酔）
伊藤 朝子（麻酔）
兒玉 奈未（麻酔）
小髙　光晴（麻酔）
山本さおり（麻酔）
的山　由季（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1353

特徴：当院は東京都中野区の北部にあり,東京都西北部の地域支援病院・二次救急病院である．福島県郡山市の脳神経疾患研究所付属総合南東北病院を母体とする南東北グループ病院．脊椎・脊髄疾患を含む脳神経外科の症例が豊富．COVID-19 以前の麻酔科管理手術は年間 2,400 件ほどだった．2020 年度以降はCOVID-19 の対応で手術件数が減った．2023 年度の総手術件数は 3282 件で麻酔科管理手術は 2517 件と COVID-19 以前を超えた．脳神経外科だけではなく,消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・心臓血管外科・整形外科・形成外科・美容外科・婦人科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・眼科・歯科口腔外科の手術を多症例おこなっている．産科、小児外科、乳児以下の年齢の症例はおこなっていない．手術室は11室あり,2室はレントゲン透視のあるハイブリッド手術室で2室はクリーンルーム．麻酔科管理手術は最大 7 列で常勤医師 6 名と 2 名の非常勤医医師とでおこなっている．産科と乳児・新生児の研修は新百合ヶ丘総合病院他での研修となる．集中治療専門医の指導の下に集中治療の研修も可能.

⑩ 公益財団法人　榊原記念財団附属　榊原記念病院

研修実施責任者：清水　淳（麻酔一般、心臓麻酔）

専門研修指導医：一瀬　麻紀　（麻酔一般、救急医療）

古市　結富子　（麻酔一般、心臓麻酔、集中治療）

認定病院番号　第1441番

特徴:急性期医療を中心とした，あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設である．小児先天性心疾患を含む心臓血管手術全般および最先端のカテーテル治療の麻酔管理、術後管理を中心とした集中治療管理を豊富に経験することができる．また他科・他職種間の垣根が低く，カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができる．地域医療支援病院である.

⑪ 国際医療福祉大学市川メディカルセンター

研修実施責任者：志賀 俊哉(麻酔・ペインクリニック)

専門研修指導医：志賀 俊哉(麻酔・ペインクリニック)

麻酔科認定病院番号：1384

特徴：ペインクリニック専門医が常勤でいるため3年目以降のペインクリニック研修を主に行う.

⑫ ニューハート・ワタナベ国際病院

研修プログラム統括責任者：宮田和人（心臓麻酔・集中治療）

専門研修指導医：宮田和人（心臓麻酔・集中治療））

重松明香（心臓麻酔・集中治療））

佐藤美智枝（心臓麻酔）

認定病院番号：1727

特徴：成人心臓手術に特化した病院で，ロボット支援下心臓手術を行っている日本でも数少ない施設.

5. 募集定員

3名（プログラム申請時の希望数）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は麻酔科専門医の資格を取得することを前提とし，日本専門医機構に定められた方法（厳守のこと）により，期限までに（専門医機構より発表あり次第 HP に掲載予定）志望の研修プログラムに応募する.

日本専門医機構に定められた方法以外での応募は認められない.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話、E-mail，郵送のいずれの方法でも可能である.

新百合丘総合病院　麻酔科部長：　伊藤寛之

〒215-0026 神奈川県川崎市麻生区古沢都古255

TEL 044-322-0461　E-mail： ar39square@yahoo.co.jp

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる.

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能.

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力.

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣.
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心.

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する.

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する.

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる.

8. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する.

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる.

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３の患者の周術期管理やASA１～２の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術・胸部外科手術・脳神経外科手術・帝王切開手術・小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック・集中治療・救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

・研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．

・専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の専門研修責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

具体的には，一般的な病院において，ASA1度あるいは2度の患者に対して一人で術前・術中・術後を通じて，麻酔ならびに周術期医療を安全に遂行できることが望まれる到達水準である．

周術期医療に関する専門知識，専門技能だけでなく，医療安全，感染制御の知識と技能，学問的姿勢，チーム医療におけるコミュニケーションスキル，医師としての倫理性と社会性などが専門医に見合う水準に到達しているかも判定の評価対象となる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

・専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
・出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は，１回までは研修期間に含まれる．
・妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して２年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して４年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
・２年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし，２年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

・専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
・専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

・専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

14. 地域医療への対応

当プログラムは新百合ヶ丘総合病院麻酔科を基幹施設とし，川崎市北部医療圏を中心とした医療を支えるものであり，地域医療に十分配慮したものとなっている．また当院は，その他の医療圏からの患者も幅広く受け入れており，広域への貢献もなされている．

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中は，常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は，専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮している．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する．就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導する．